

( 国語科 )

**主体的に学ぶ子どもの育成**  
**—対話によって考えを広げ、深める指導法の工夫—**

大阪市立西淡路小学校

## 1. 研究主題設定の理由

本校では、「自分や相手を大切にする」「人とのつながりを大切にする」ことを中心に教育活動を推進してきた。本年度は国語科の授業実践を通し『主体的に学ぶ子どもの育成～対話によって考えを広げ、深める指導法の工夫～』を研究テーマとし、「児童が自分の考えをもち、自分の言葉で伝える姿」「友だちの考えを受けとめ対話する中で、理解を深めたり、新しい考え方を発見したりする姿」をイメージして研究を重ねてきた。

## 2. 研究の趣旨

本校では、全ての教科等における学習活動での「対話する力」の育成を進めるために、ペアやグループでの対話の機会を積極的に設けてきた。その結果「自分の考えを書くこと」で考えを他者に伝えることができると実感している児童が増えてきた。一方で、指導者からは、交流活動での課題が多く挙げられた。そこには、他者の意見、意図が理解しにくいなどの聞く力の不足、自分の考えを根拠をもって書いたり、比較したり関連づけたりして書く力の不足、それを的確に説明する語彙力の不足が見られた。そのため、他者に伝わるような話し方が不足し、他者の考えと自分の考えを比べ、質問したりつなげたりする姿や自分の考えになかったものを受け入れて自らの考えに生かす姿があまり見られなかった。また、児童の対話が活性化するような課題設定の重要性や何のための対話なのか明確にすることの必要性が再確認された。

これらの課題から、「話す力」「聞く力」「書く力」「語彙力」の4つの力が必要だと考え、今年度は国語科を中心とした対話力の育成を目指していくことにした。その力を支えるための手立てとして、再度、思考ツールを活用することにした。児童が自分の考えを整理するだけでなく、ツールを見ながら対話することで、他者の考えを視覚的に確認でき、聞く活動の助けにもなると想定した。このように、書く場を設定し、伝え合う活動を充実することで児童の考えが広がり、深まるようその指導法の研究を進めてきた。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

### 視点① 書く場の設定

- 自分の意見とその意見を支える理由・根拠を書く場の設定をする。叙述をもとに書くことが大切だと考える。
- 思考ツールの活用をする。自分の考えを整理し、文章を書く手助けとする。  
また、ツールを見ながら対話することで、相手の考えを視覚的に確認し、聞く活動の手助けとする。

### 視点② 伝え合う活動の充実

- 話し合い活動（ペアトーク・グループトークなど）を取り入れた授業づくりをする。
- ハンドサインを活用する。
- 考えを深める話し合い活動になるための指導者の支援を工夫する。

- ① 課題の設定・提示の工夫
- ② 発問・指示の工夫
- ③ 構造的板書の工夫

#### 視点③ 日々の取り組み

- 話す力、聞く力、書く力、語彙力の基礎を築くための取り組みをしていく。
- 朝の学習の時間（8：35～8：50）や国語科を中心に行う。

### 4. 研究の成果と今後の課題

#### （１）「書く場の設定」について

授業の中で、自分の考えをまとめる時間を必ず設定した。自分の考えをもたせるためには、十分な時間を確保することが必要だった。また、「何を考えさせたいのか。」を指導者が明確にする必要もあった。物語文では、思考ツールで自分の考えを整理したのを見直すことで、山場に向けての中心人物の心情にせまることができた。また、説明文では、観点が明確になり意欲的に自分の言葉で考えを書く児童が増えた。しかし、思考ツールをうまく使いこなせない児童もいた。今年度から、各学年で系統立てて日ごろから思考ツールで考えをまとめる機会を設けている。引き続き、活用していくことが必要である。

#### （２）「伝え合う活動の充実」について

授業において、ペアやグループでの話し合い活動を設定した。話型や話し方などに気を付けることで、相手に伝わりやすくなることも気づかせた。回数を重ねるごとに児童は、抵抗なく友だちに考えを伝えることができた。また、「対話によって考えを広げ、深める」ためには、話し合い活動のタイミング、話し合い活動の形態を工夫する必要があることもわかった。特に低学年は、ペアの話し合いを中心に進めていくことでめあてにせまっていけることができた。また、交流の観点をしぼることで、質問したり、意見や感想を言い合ったりできることがわかった。次に、児童の考えを板書する際、思考ツールでまとめたり、矢印でつなげたりして、構造的な板書になるように取り組んだ。その結果、児童の多様な意見に指導者が対応することができ、話し合いを深める手立てとなった。課題としては、児童がねらいに沿った気づきをするために、指導者が明確な評価基準をもち、指導する必要があった。

#### （３）「日々の取り組み」について

年間を通して、朝学習の「かくかくタイム」を計画的に行った。低学年４種類、中学年７種類、高学年９種類の思考ツールを活用できるよう取り組んだ。思考ツールを活用して、自分の考えを整理しながら表現する活動を積み重ねることで、苦手意識をもつ児童も少しずつ表現できるようになった。高学年では、テーマや自分のまとめたい内容によって、思考ツールを選んで活用する児童もでてきた。また、「かくかくタイム」で書いた文章をもとにスピーチをする際には、理由や根拠、体験したことなどをくわしく話せる児童が増えてきた。思考ツールで整理することにより、自分の考えを明確にできたからだと思われる。また、スピーチ後に質問をする活動を取り入れたことで、他者の話の内容を理解しようとする態度が見られるようになってきた。しかし、語彙力がまだまだ乏しい児童が多い。日々の学習活動の中で、言葉を増やす活動を続け、書く活動を更に高めていきたい。